

平成31年3月

各 位

## News Release

「公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団」

平成31年度

地域の伝統文化分野 助成対象先を決定

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団（1991年6月設立・理事長関口憲一）では、地域の伝統文化（民俗芸能および民俗技術）の継承、特に後継者の育成を支援するため、昨年11月から平成31年度『地域の伝統文化保存維持費用助成』制度の助成対象候補者を公募してまいりました。このたび応募126件の選考を終えて42件の助成対象者を決定し、助成金目録の贈呈を行うこととなりましたので、ここにお知らせいたします。

なお、本年度の決定を含めた本制度による助成件数の累計は、当財団設立以来1,222件になります。

### 【お問い合わせ先】

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団

〒160-0023

東京都新宿区西新宿1-9-1

明治安田生命新宿ビル2階

TEL. 03-3349-6194

FAX. 03-3345-6388

## 記

### 1. 公募方法と公募期間

都道府県の教育委員会または知事部局の担当課を推薦窓口とする要推薦制度の公募を、平成30年11月から平成31年1月31日まで行い、126件の申込を受付けた。

### 2. 助成対象

- (1) 地域の民俗芸能(民俗行事・民俗音楽を含む)の継承、特に後継者育成のための助成。
- (2) 地域の民俗技術(伝統的製作技術・衣食住に関わる生活技術・伝統工芸を含む)の継承、特に後継者育成のための助成。

### 3. 助成対象者の決定

選考委員会における選考審査(2月21日)を経た後、理事会の承認を得て決定。

#### 【伝統文化分野選考委員】(敬称略)

委員長	小島美子	国立歴史民俗博物館名誉教授
委員	天野武	儀礼文化学会名誉会員
〃	田中宣一	成城大学名誉教授
〃	田村善次郎	武蔵野美術大学名誉教授
〃	西角井正大	国立劇場おきなわ運営財団理事
〃	星野紘	独立行政法人日本芸術文化振興会 プログラムディレクター
〃	渡辺行信	当財団評議員

### 4. 助成決定件数・助成金額

#### (1) 平成31年度 部門区分別 助成決定件数・金額

部門	申込件数	決定件数	助成金額
民俗芸能	118件	39件	1,736万円
民俗技術	8件	3件	114万円
合計	126件	42件	1,850万円

(注)都道府県別の助成対象および金額等は、3頁～7頁(民俗芸能の部および民俗技術の部)をご参照願います。

## (2) [ご参考] 助成件数・金額の推移 (金額単位:万円)

年度 (平成)	民俗芸能		民俗技術		合 計	
	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額
3年	24	1,717	5	229	29	1,946
4年	29	1,960	5	190	34	2,150
5年	30	1,958	5	200	35	2,158
6年	34	2,060	6	240	40	2,300
7年	38	2,310	5	190	43	2,500
8年	41	2,550	6	250	47	2,800
9年	41	2,670	6	230	47	2,900
10年	43	2,800	4	140	47	2,940
11年	44	2,845	4	155	48	3,000
12年	43	2,740	6	260	49	3,000
13年	42	2,740	8	260	50	3,000
14年	38	2,590	10	410	48	3,000
15年	33	1,590	2	60	35	1,650
16年	31	1,525	5	125	36	1,650
17年	37	1,650	0	0	37	1,650
18年	35	1,666	2	80	37	1,746
19年	37	1,780	2	70	39	1,850
20年	39	1,810	1	40	40	1,850
21年	38	1,740	4	110	42	1,850
22年	39	1,735	3	115	42	1,850
23年	41	1,814	1	36	42	1,850
24年	48	2,122	6	185	54	2,307
25年	40	1,775	2	75	42	1,850
26年	41	1,802	3	98	44	1,900
27年	40	1,746	4	104	44	1,850
28年	41	1,800	2	50	43	1,850
29年	42	1,811	1	39	43	1,850
30年	41	1,775	2	75	43	1,850
31年	39	1,736	3	114	42	1,850
合計	1,109	58,817	113	4,130	1,222	62,947

## 5. 助成金目録の贈呈

助成対象者の所在する最寄の明治安田生命支社において贈呈式をおこなう予定。

# 平成31年度 地域の伝統文化 助成対象

(敬称略)

## 1. 民俗芸能の部 (民俗行事・民俗音楽を含む)

39件 1,736万円

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
青森県	ハチハシリツシマモリショウカ ッコウカグ ラケ	10	明治20年代創始とされる山伏神楽。S30年代に中断、地元小神楽クラブで継承し、H11年復活。地域行事や芸能発表会等で披露。保存会の指導で番楽と剣舞の二種の踊りを継承中。学校とは別会計で運営。
	島守神楽		扇子・刀の購入費の一部として
岩手県	ハチマンダ イカゲ ラボゾノカイ	50	八幡大神楽は、山田八幡宮例大祭の役踊りとして、大漁祈願と悪を払い清めるため、明治初期より始まったと伝えられる。四方ふみ、歌神楽、通り踊り、獅子狂い、ちらしの演目がある。毎年9月の神幸祭神輿渡御を行う。
	八幡大神楽		太鼓購入費の一部として
宮城県	アキウジノヅ ヲカゲ ラボゾノカイ	37	慶長3年(1598)の奉納記録がある神楽。十二座神楽の形式を踏まえ法印神楽の特徴も持つ・12演目を継承。1月・9月の秋保神社例祭奉納の他、地域の祭等で披露。市内で唯一湯立神事を伝える。
	秋保神社神楽		神楽衣装新調費の一部として
秋田県	オホユオウ イボゾノカイ	25	永禄年間(1558～69)の合戦を起源とし、その後五穀豊穡と先祖供養の盆行事として継承。8月15日の大湯大太鼓祭や芸能イベントで披露。直径1m超の大太鼓を笛に合わせて4人がかりで打ち鳴らすのは、珍しい。
	大湯大太鼓		篠笛購入費として
秋田県	セントウハノカケラボゾノカイ	20	江戸初期に伝わった山伏神楽を継承。12演目中現在は4演目を演じる。8月17日の白山神社奉納を始め年間10回程度公演。舞の種類が獅子舞・鶏舞から武士舞まで多岐にわたるのが特徴。
	仙道番楽		胴幕の新調費として
山形県	ナベタネヅ ヲウボゾノカイ	55	安永2年(1773)上杉鷹山の指示で「大念佛」の幟旗を立て雨乞祈願したのが創始とされる念佛踊。鍋田太符神社春祭に奉納。太鼓の音と共に小学生を含む地区全戸の総勢200人が五穀豊穡を願い踊る。
	鍋田念佛講		道具整備費の一部として
茨城県	コカカゲ ラボゾノカイ	40	享保10年(1725)より続く出雲流神楽十二座の舞を継承。当初神職により伝承されていたが、S4年に保存会を結成し受け継ぎ今日に至る。舞の要領により、舞の形を崩さずに故実のまま継承。
	古河神楽		神楽面の作成費用として
栃木県	オホリジノヅ ヲカゲ ラボゾノカイ	50	江戸期に日光二荒山神社から伝わったとされる神楽。大神神社の春秋祭に奉納。一時衰退、S57年保存会結成し継承。日本神話題材の12演目を持つ。神への奉仕としての古来の舞を守り続けている。
	大神神社神楽		猿田彦装束の新調費の一部として
群馬県	イキオンハシボゾノカイ	7	寛政年間(1789～00)に神宮の別当が八坂様を祀ったのが創始とされ、7月の市祇園祭に奉納。五穀豊穡・無病息災を願い若衆が笛・鉦・太鼓の囃子で木槍先頭に町内を練歩く。神輿は天明年間(1781～88)の作。
	市祇園囃子		道具購入費の一部として
埼玉県	トゲチヤノカイ	65	大正期創始とされ八坂神社夏祭に演奏する戸口ばやしを継承。度々中断したが、伝承元の鳩山町今宿地区囃子連の指導を受けS52年復活。獅子の門付に随行して各戸で演奏。流儀は神田大橋流旧囃子。
	戸口ばやし		道具整備費の一部として
埼玉県	ブコウサノミタケノヅ ヲカゲ ラボゾノカイ	30	文禄5年(1596)創始とされる神楽。数度中断したが復活。御嶽神社春秋の例祭に里宮の神楽殿で奉納。後方の格子戸から舞を見て奏する「隠れ囃子」が特徴。17演目中14座を演ずる。武甲山山開きでも披露。
	武甲山御嶽神社里宮太々神楽		大蛇衣装新調費の一部として

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
埼玉県	スワンサホリソカイ 諏訪万作保存会	15	桶川市の万作継承5団体の一つ。S30年代の町村合併に際し他団体から学び発足。一時衰退、H22年子供入会により復活。諏訪神社夏祭に奉納する他、地域行事など年間8～10回参加している。
	万作		衣装・道具購入費の一部として
千葉県	イヌマノシマイホリソカイ 岩沼の獅子舞保存会	60	江戸期から皇産霊神社秋祭に五穀豊穰・厄払を願い奉納する獅子舞。舞・劇・踊りの各部から構成。地上8mの大梯子上で狐・獅子が舞う「乱玉の舞」は妙技。歌舞伎を参考にし劇の部は県内でも異色の存在。
	岩沼の獅子舞		道具の新調費の一部として
東京都	カシタタイコカイ 榎立太鼓会	15	江戸期から伝わる八丈太鼓。S55年太鼓会設立し継承。太鼓の両面に二人が向い合い一定のリズムを刻む下拍子と自由にリズムを重ねる上拍子で構成。祝辞等で披露。同地区の榎立踊保存会(町指定)との連携も可能。
	八丈太鼓		太鼓購入費の一部として
富山県	ヒロノジチカイ 広野自治会	30	明治中期に魚津市から学んだ獅子舞。香積廣野神社秋祭に巡行の露払として全308戸で舞う。天狗が獅子あやしとなる氷見型百足獅子で、12種の演目を持つ。10～15年に一度、天狗が獅子を退治する「獅子殺し」を舞う。
	香積廣野神社 秋季祭		衣装購入費の一部として
石川県	カワシロカイ シンブキョウ 川尻会 獅子舞響	45	大正期創始とされる獅子舞。地元2神社の秋祭に奉納。小太鼓を腰につけ太鼓・笛と芸者2人の三味線に合わせ舞う。棒振りは金沢から学んだとされ町内に見られぬ形。小学生の大獅子と若連の俄獅子で演ずる。
	獅子舞		道具整備費の一部として
福井県	カハマチネマツホリソカイ 高浜七年祭保存会	60	起源を永禄12年(1569)頃とする佐伎治神社の式年大祭。巳年と亥年の6年毎、6月下旬の7日間に行われる。3基の神輿が町内を巡行し、各所で芸能が演じられ、最終日は鳥居浜海岸へ巡行し、海水を掛け合う。
	高浜七年祭		長胴太鼓購入費の一部として
山梨県	コブシジマイホリソカイ 小伏獅子舞保存会	35	慶応元年(1865)に奥多摩から伝わった一人立ち3匹獅子舞。五穀豊穰・悪魔防ぎ・悪病除けを祈願し、小伏八幡神社秋祭に奉納。25戸の小集落ながら戦争等の混乱期を乗り越え地域ぐるみで8演目を継承している。
	小伏獅子舞		獅子舞用具購入費の一部として
長野県	ホトミヤシキヤハウホリソカイ 根神社式三番叟保存会	60	江戸中期創始とされ根神社春祭に奉納される三番叟。露払の「千歳」に続き白色尉面の「翁」と黒色尉面の「三番叟」が加わり笛・小鼓に合わせて鈴を鳴らし激しく舞う。「千歳」と「三番叟」のコミカルな問答も趣き深い。
	根神社式三番叟		衣装新調費の一部として
静岡県	イズシマクワトウリソウ 伊豆島田区不動尊講	25	慶長19年(1614)の実施記録がある念仏講。伊豆島田不動尊の淡島堂で毎月28日に仏像祈願・戦死者慰霊を行う。太鼓・木魚に合わせ般若心経と舍利禮文を三回読経。女性の神様が祀られ女性達の交流の場。
	不動尊講		長胴太鼓購入費の一部として
愛知県	ショハタオコワマツホリソカイ 勝幡おこわまつり保存会	20	江戸期創始とされ勝幡神社春祭に無病息災・豊作祈願の為オコワを樽に詰めて練歩く行事。神車の後樽を境内の石に叩き付け中のオコワを奪い合う。一時衰退、H15年保存会結成し復活。下之森のオコワ祭と共に国選択。
	勝幡オコワ祭		用具整備費の一部として
愛知県	シタモイレイホリソカイ 下門祭礼保存会	70	T12年購入の山車・からくり人形を継承。武雄神社春祭に山車とからくり人形の舞を奉納。前山で応神天皇、後山で神功皇后と武内宿祢が舞う。鳴り物は一切使わず観世流の謡のみで演ずるのが特徴。
	長尾部祭礼からくり人形奉納		人形整備費の一部として
愛知県	トリハラカブキアキウカイ 鳥原歌舞伎愛好会	60	戦前から地元神社の祭礼時に奉納されていたが大戦時に中断。S57年に愛好会を発足させ、S59年秋の祭礼時に復活上演。大人による奉納歌舞伎の他、小学生の「弁天娘女男白浪～稲瀬川勢揃いの場」が目玉。
	鳥原歌舞伎		子供用「五人男」かつら制作費として

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
三重県	ゴカシヨウラ 五ヶ所浦区	45	南北朝期の元服行事の流れを汲む弓引き神事。42歳の厄年男子9人が鬼役1人と射手8人に分れ袴姿で的を射ぬく。八幡社で旧暦1月11日に行われていたが現在は2月下旬に行う。町内には計16カ所残る行事。
	八幡弓引き神事		道具整備費の一部として
滋賀県	フルヤクサインブツトドリホジノカイ 古屋六斎念佛踊保存会	36	文久3年(1863)墨書の太鼓を持つ念佛踊り。8月14日に玉泉寺の堂内で行う他、一昨年家周りも復活。太鼓3・鉦2・笛2が1組となり、締太鼓を上下左右に振って踊るのが特徴。京都・若狭の中間点での存在は貴重。
	六斎念佛踊		六斎太鼓購入費として
大阪府	ナカサヒチョウカイ 中佐備町会	64	江戸中期創始とされ佐備神社秋祭に曳行する32基の地車の一つを継承。大太鼓・小太鼓・鐘に合わせ祝い節・民謡を地声で唄いだんじりを曳行する形は、他地区ではあまり見られない。
	地車(だんじり)はやし		長胴太鼓補修費として
兵庫県	シモハマサンバツツボノカイ 下浜三番叟保存会	70	安永2年(1773)実演記録がある三番叟を継承。千歳・翁・黒木尉で構成し、八幡神社秋祭に奉納。踏子の化粧やかげの拍子木に歌舞伎の影響がある。町内7カ所で継承しているが、節回しや細部の動作が異なる。
	下浜三番叟		道具整備費の一部として
奈良県	ベニシデオドリホジノカイ 紅しで踊り保存会	50	江戸期から伝わる雨乞踊。大正期に途絶え、S33年古老の協力で復活。室町後期のナモテ踊りの系譜を引く。「白しで」を女性用に短くし紅色を付けた為「紅しで踊り」ともいう。大和盆地に唯一残る雨乞踊として貴重。
	大和郷しで踊り(紅しで踊り)		道具整備費として
鳥取県	オオツカボンソドリホジノカイ 逢東盆踊り保存会	32	逢東地区は、800年ほど前、空也上人が広めたといわれる念佛踊りが盆踊りとして伝えられているが、これに各地から入ってきた踊りが混然一体となって生まれた、漁師や船乗りによって伝えられた可能性が高い。
	逢東盆踊り		長胴太鼓新調費として
島根県	ツチエトモカグラダン 土江子ども神楽団	60	江戸期より継承する子ども神楽。H5年に中断、H12年再結成。正月の仮屋行事や土江神社春祭で舞う。団員45人で年70回公演。海外公演やホームステイ交流も実施。寛永年間(1624～43)製作の木彫面を持つ。
	土江子ども神楽		道具整備費の一部として
徳島県	ヒチセカイ 七成会	60	明治期から諏訪神社・高越神社秋祭で五穀豊穰等を祈願し奉納する獅子舞を継承。奉納後は氏子宅を「当屋まわし」する。獅子2頭が5演目を舞う。獅子頭を内側の1本綱で激しく振り動かす「暴れ獅子」が特徴。
	七丁原の獅子舞		獅子頭修理費の一部として
愛媛県	シモカワシマホジノカイ 下吾川獅子舞保存会	60	当地区の宇佐神社に、300年程前から五穀豊穰等を祈願して奉納されている獅子舞を継承。舞は前半の「いれは」と後半の「獅子舞」で構成。夏祭りは2カ所、秋祭りは30カ所で披露する他、市民文化祭でも実施。
	下吾川の獅子舞		太鼓購入費の一部として
高知県	オオタニハトリオドリホジノカイ 大谷花取踊保存会	50	天文9年(1540)頃、一条氏の岡本城攻めの際の踊りを起源とし、12種類の踊りと歌がある。その中で「きりしき」は、音頭3人が真剣を持って踊り大注連縄を1振りで切るのが見所。須賀神社例大祭等で奉納。
	大谷の花取踊		太刀購入費として
福岡県	ヌマカクホジノカイ 沼楽保存会	50	江戸期から雨乞・家畜の防疫を祈願した太鼓踊を継承。沼八幡神社春祭に言上・杖・太鼓・大鉦・子鉦・笛奏者ら30人が装束に身を固めて奉納。九州・四国に「楽」は多いが、毎年奉納と装束の鮮やかさは随一と自負。
	沼楽		道具・衣装整備費の一部として
佐賀県	ヤノカラムンブリョウホジノカイ 龍宿浦面浮立保存会	60	300年前の鬼面を持つ面浮立。2年に1度七浦秋祭に五穀豊穰の面浮立を、毎夏沖の島参りに航海安全の鉦浮立を夫々奉納。舞(カケ・鳥毛)・鉦・小太鼓・大太鼓・笛で構成。黒装束と面長な浮立面が特徴の音成系。
	龍宿浦面浮立		締太鼓購入費の一部として

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
長崎県	カリタテオネオンテホソソカイ 狩立オ材テ保存会	30	念仏踊りのオネオンテは、五島列島に伝わる盆の供養踊りの1つ。盆の3日間町内墓地での奉納や市内のイベントに出演。地域の絆を深めるきっかけとなり、H26年には全国民俗芸能大会九州・沖縄ブロック代表として出演。
	念仏踊り		念仏太鼓両面張替費として
大分県	クスカガラジギンシャ 玖珠神楽 神祇社	65	享保5年(1720)に高千穂神社神主家から伝わる日向系岩戸神楽を伝承。T9年に当地区に伝えられて神祇社を結成。女性的な物腰の柔らかな典雅で気品のある舞が特徴。毎年引治天満社秋季大祭等で奉納。
	玖珠神楽		用具整備費として
宮崎県	オカワカハラホソソカイ 小川神楽保存会	60	米良神社の春・夏祭の神事に続き、12月中旬奉納する夜神楽。稲の育成を願う「唐っ旦」や翌年の五穀豊穡を祈る「田の神祭り」等、祭神盤長姫に縁の舞を含む。衣装に旧領主菊池家の家紋が施されている。
	小川神楽		道具整備費の一部として
沖縄県	シタハシシマイホウジユツホソソカイ 志多伯獅子舞棒術保存会	60	3年忌の節目(1・3・7・13・25・33年忌)のみ行う豊年祭。獅子舞と棒術を約300年間継承。旧暦8月15・16日に開催し、戦前からの狂言・組踊を維持するのは県内でも稀有。H9年に保存会結成し次期開催に備えた。
	志多伯獅子加那志豊年祭		獅子頭作製費の一部として

2. 民俗技術の部（伝統的製作技術・衣食住に関わる生活技術・伝統工芸を含む） 3件 114万円

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人		助成目的
	民俗文化財の名称		
岐阜県	スギヤマ コレキョシ 杉山 是清 氏	39	江戸期以前から自生するわらびを利用しわらび粉とわらび綱を製造。僻地山村では貴重な換金作物だった。他の地域では全て畑栽培であり、天然のわらび根を「半栽培」で採取するのは飛騨地方のみ。
	らび粉生産とわらび縄製縄技		機械製作・材料費として
山口県	スエダヤキモノリゾンカイ 末田焼物の里保存会	40	明治期に手作りから機械式生産に移行した末田焼。昭和50年代まで陶製の「末田土管」が隆盛した。S26年常滑焼の土管製作技術を応用し、蝸壺製作に転換したが唯一の窯元が閉業し、保存会を設立。
	末田焼の製作技術		登り窯等設備補修費の一部として
長崎県	シマハラモノリゾンカイ 島原木綿織保存会	35	慶長17年(1612)寺創設時に献上記録がある島原木綿。明治期に機械生産を開始し飛躍的に発展。戦時下の統制で停止。経験者の助力でH2年保存会結成し復活。諸道具が金属でない為供出を免れ継承された。
	島原木綿製作技術		材料購入・道具修繕費の一部として



## 財団案内

### 財団の目的

明治安田クオリティオブライフ文化財団(理事長:関口憲一)は、音楽における人材育成ならびに地域の伝統文化の保存維持、および後継者育成に対する助成などをおこない、もって国民生活の質的向上ならびにわが国文化の発展に寄与することを目的としています。

### 【財団の概要】

名 称	公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 The MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION
設 立	平成3年(1991年)6月10日
主務官庁	内閣府
基本財産	15億円
事業内容	・音楽分野における若手芸術家の人材育成に対する助成 ・民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・芸術文化活動に関する調査研究、出版物の刊行
事業計画	○クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成に対する助成 ・海外における音楽研修に対する助成 ・国内音楽学生に対する奨学援助 ○民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・地域の民俗芸能(含、民俗行事、民俗音楽)の保存維持、後継者育成のための助成 ・地域の民俗技術(含、伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸)の保存維持、後継者育成のための助成
事業成果	これまでの累計助成状況(平成31年3月現在) ・音楽分野 508人 9億1,130万円 ・伝統文化分野 1,222件 6億2,947万円
主な出捐企業	明治安田生命保険相互会社

